

2025（令和7）年度 事業計画

日本経済は、企業の旺盛な設備投資などにより、停滞から成長への転換点を迎えています。この好機にデフレマインドの払拭とイノベーションへの挑戦による「成長型経済」を実現することが必要です。そのためには、設備投資のさらなる増加、労働力の確保、技術革新などに取り組むことが求められています。

上場企業の業績が好調に推移していますが、日本の経済成長の推進役は雇用の7割を担う中小企業です。中小企業の課題は、価格転嫁の浸透、省力化・DX推進による生産性向上、新事業展開、海外展開への挑戦であり、商工会議所はその支援を担っています。

昨年度は、会頭として現場主義・双方向主義を信条として、会員、非会員を問わず市内企業の経営トップや行政トップとの膝を交えた懇談をはじめ、地元高校生などの幅広い市民層との対話や意見交換を実施し、「宝塚の強みと課題」を再認識しました。中でも、経営トップとの懇談では、経営者として抱える悩みや、地域で育てられた企業としての地元への想いなど、宝塚のまちへの深い愛着を感じました。一方で、住宅都市として発展した住工混在のまちでの事業継続のご苦労や工夫、都市基盤整備の要望など、市内企業が抱える共通課題や切実な声を伺い整理することができました。

また、多くの方々との意見交換を通じて、宝塚の様々な魅力を再発見しました。宝塚には「歌劇や温泉」以外にも豊かな自然や、神社仏閣、そして、SDGsに通じる「生命と自然の尊さ」を謳った手塚作品が体験できる「手塚治虫記念館」があります。宝塚市（手塚治虫記念館）、宝塚市国際観光協会、株式会社手塚プロダクションと当所が連携して、大阪・関西万博のインバウンド誘客や手塚治虫氏生誕100年を迎える2028年に向けて、双方で企画を出し合い、宝塚のまちの活性化に取り組みます。

今年度は、4月から大阪・関西万博が開幕します。来場予想者数は約2,820万人、うち国内来場者は約2,470万人（88%）、海外来場者が約350万人（12%）とされています。これを契機に、SNSやWEBを活用し宝塚の情報発信を強化する施策も計画しています。

私たち経営者が直面する課題は年々複雑化、高度化しており、同時に商工会議所に課せられる役割、期待も高まっています。令和4年11月からの第10期重点活動テーマとして、「会員増強」「情報発信の強化」「まちの賑わいづくり」を掲げ取り組んで参りました。第10期の最終年度となる令和7年度は、双方向の意見交換をこれまで以上に深めて成果につなげ、次の第11期を展望した強固な基盤づくりと事業活動を展開したいと考えます。

引き続き皆様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。